



# やなぎの子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

## ヴィラン

校長 萩原 哲哉

情報番組で出会った英語「ヴィラン (Villain)」、意味は「悪役」だそうです。最近の映画やドラマで、正義の味方だけでなく、悪役が主人公になるものが多くなっていることを伝える内容でした。そういえば、かの「鬼滅の刃」でも、主人公でこそないにせよ、悪役である側の鬼の視点に立って進められる場面が、しばしば登場していましたね。

私達の生活の中には、さまざまなトラブル～「悪」～があります。

「人を傷つけることを言うてはいけない」……このことを否定することはできません。人は必ず誰かの力を借りながら、時には力を貸す側にもなり、お互いがお互いを思いやる気持ちを基盤に、生きていくものだからです。注意したいのは、「人を傷つける言葉はいけないんだよ。だから、そういう言葉を言ってしまった人は、悪い人なんだよ。」とだけ、考えてしまうこと。たった一面だけをとらえて、「あの人は悪い人。だから嫌い。」としてしまうこと。戒めたいと思っても、実際はあるように思います。「悪役」にだって、優しい面、憎めない面が、たくさんあることを、ヴィラン映画やドラマは、気付かせてくれます。

この、「私はあの人がきらいだ。許せない。」という気持ちは、どこからくるのでしょうか。一度でも嫌なことをされたからでしょうか。それとも、その人の特徴やクセが、自分には許せないことだからでしょうか。

「あの人は、人の嫌がることを言った」という事柄は、一つの事実・「知識」になります。知識はそのままでは「点」。身に付けた点と点を結び線にすることで、使える（判断する材料）になります。この「線（糸）」は、合わせ織り込むことで「面（織物）」になり、はじめて自分だけのものになります。この行為がまさに、「紡ぐ」ということ。「嫌なことを言う人」という糸と、「こんなことをしてくれる人」「こんな優しいところもある人」という糸が紡ぎ合ってできる織物は、チクチクと肌に刺さるものではなく、「いつか誰かを温めうる」ことのできるものにもなるはずです。（苦手な人、嫌いな人とは、「今日、はじめて会った人と思いなさい」というアドバイスもあります。）

令和3年度、楽しかった「点」、苦勞して覚えた「点」、我慢して出会えた「点」。生活の中にたくさんの点がありました。「たくましく 学びを紡ぐ」のが、やなぎの子。できあがった「面」は、人それぞれです。一年前の自分を思い出しながら、「覚えたこと・できるようになったことをもとにして、こういうふうにかえることができるようになった」と考えることそのものが、一年の学びの振り返りになります。紡ぎあげた糸、完成させた織物を自覚し、次の年度を迎えたいと思います。